

(第3種郵便物認可)

# 若者の投票率アップへ

愛知教育大学(刈谷市井ヶ谷町)で2日、若者の投票率アップ策について、学生たちが考えたアイデアの発表会が行われた。「子どもが生まれたら、選挙を題材にした絵本をプレゼントする」「投票所でお祭りを開く」など、若者の視点からユニークな策が披露された。(平沢祐)



若者の投票率アップ策を発表する学生

## 愛教大で学生がアイデア披露

美術教育の2年生が必修で学ぶ「デザイン」の授業の一環。「デザインは現状を把握し、問題を解決する能力が必要だ」という担当の富山祥瑞教授の考えから、これまでも「スナック菓子の売り上げアップ策」などを題材にしてきた。今期は、政権交代に加え、今夏に予定される参院選に向け、「若者に投票に行ってもらおうにはどうしたらいいか」をテーマにした。

学生31人は昨年9月から7班に分かれて、若者が選挙に行かない原因などを考え、どうしたら若者の投票率を上げられるか、各班で研究し、15回目の最終講義で、研究成果を披露した。

各班からは「選挙に行くメリットが感じられない」「行くのが面倒だ」など、若者の選挙への関心が薄いことが指摘された。

対策として、「献血所のように、菓子などをサービスしたらいいのでは」「投票所でお祭りを開く」など即効策から、「小学校6年間で選挙について教育する」と長い目で若者への参加を促すものまで、様々なアイデアが出された。中には、「大人は投票に行くよ」などと絵本にして、子どもたちに選挙を身近に感じてもらうと、実際に絵本を作った班もあった。

富山教授は「考えるうちに、自分たちで課題を見つけてくれた。学生たちは選挙に関心を持ってくれたと思う」と手応えを感じた様子。学生の長崎由利子さん(20)は「発表前は選挙にあまり興味がなかったが、調べていくうちに選挙が身近に感じられた」と話した。

### 【掲載後の反省点】

学生プレゼンテーションおよび教員の事後取材対応の反省点として、企画の根幹(戦略)よりも、具体性のある枝葉(戦術)がクローズアップ報道された点が惜しかったと思っています。

# お祭り会場で小学生に教育… 投票率アップへ 愛教大生が知恵

若者の投票率を上げるアイデアについて発表する学生たち。刈谷市井ヶ谷町の愛知教育大



愛知教育大学の2年生が、若者の投票率をどうやって上げるかをテーマに取り組んでいた授業で2日、学生たちがそれぞれアイデアを発表した。祭りの会場に投票所を設ける「投票所で自由に地場産品を飲食できるようにする」などユニークな内容だった。

この授業は、小・中学校の美術教員を養成する課程の2年生が学ぶ必修科目「デザイン」。テーマを絞って学生に半年かけて考え、発表してもらった。担当の富山祥瑞教授(51)は「デザインとは道筋を立てて課題を解決し、社会に還元するまでのマネジメント能力」と狙いを説明する。2003年度から始め、「スナック菓子の売り上げアップ策は」「大学生層にどうやって

車を売る」などを取り上げた。今年度は、政権交代に加え、夏に参院選もあるので、選挙をテーマにした。学生31人が七つのグループに分かれ、昨年9月から授業の度に若者が投票に行かない理由を考え、投票率を上げる具体策を研究してきた。15回目となる2日の最終授業で2時間かけて成果を発表した。各グループは、若者が投票に行かない理由として「メリットがない」「面倒だ」「結果に反映されない」などと考えていることを挙げた。その対策として、「献血所と同じく企業が提供した菓子などを自由に食べられるようにする」「お祭りなら若者は行く」といった意見が述べた。さらに「小学校6年間、選挙について学ばせる」「子どもが生まれたら選挙を題材にした絵本をプレゼントする」

といった教育の必要性を訴えたものもあった。発表後、学生から出された感想カードには「こんなに色々な戦略が出てくるとは思わ

なかった」「どれを実際に行っても、若者の投票率の上昇は見込めるのではないか」など書かれていた。富山教授は「政治的なテーマに学生は

身構えるかと思ったが、予想外に関心を持ってくれた。(これからは)選挙に行くでしょう」と話した。  
(岡本真幸)